

ほのか診察室

HONOKA Consultation room



シリーズ

第80話

小児期だけじゃない麻疹



市民病院
総合診療科医師

早川 史広

監修

する例が目立ってきました。
麻疹の症状は、主にカタル期・発疹期・回復期の3段階に分けられます。

●カタル期

麻疹の初期症状は、一般の風邪症状によく似た症状が現れます。発熱・咳・鼻汁といったカタル症状が現れることから、この段階は麻疹の「カタル期」と呼ばれています。発症直後は風邪との区別が難しいですが、発症後3〜4日程度で口腔内に小さな白い発疹（コプリック斑）が現れることが特徴です。

●発疹期

カタル期を終えると、熱が下がり、症状が一時的に軽減します。しかし、その後、12〜18時間程度で最も症状が厳しく現れる期間が訪れます。40度近い高熱とともに顔や体幹部を中心に赤色の小さな発疹が現れることから、この段階は「発疹期」と呼ばれています。

●回復期

発疹期を終え、回復期に入っても数日間はウイルスを排出しています。

そのため、症状が回復した後も数日間は自宅で安静にしている必要があります。学校保健安全法では、解熱した後、3日経過するまでは学校へ登校しないよう定められています。

カタル期に入る前の潜伏期間が、9〜12日と感染期間が比較的長いウイルスです。感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染があり、手洗い・マスクのみでは十分に予防することができません。麻疹ウイルスの一番の予防法は、ワクチンの予防接種（2回打ち）をすることです。

麻疹の予防接種は、1回の接種では十分な免疫を獲得できず、2回接種することが必要です。日本で麻疹ワクチンの標準的な2回接種が行われるようになったのは平成16年からで、それ以前は単回接種あるいは未接種者が多く、免疫が十分ではない可能性があります。平成19〜20年の流行では、そういった人の間で流行が起こったとされています。

麻疹にかかったことがない人、ワクチンを2回接種していない人は、一度かかりつけの医療機関に相談することを勧めします。

春

から初夏にかけて多い病気に麻疹があります。麻疹は麻疹ウイルスによって引き起こされ、一般的に小児期に多い感染症として知られています。麻疹ウイルスは感染力が非常に強く、免疫を持っていない人が感染すると、ほぼ100%発

症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。そのため、成人がかかる病気として認知している人は、意外と少ないのではないのでしょうか。しかし、平成19〜20年に10代、20代の若年層で流行するなど、大人になってから感染